第１学年AB組女子　保健体育科　学習指導案

指導者　佐倉　美紀

１　単　元　球技　ネット型「バドミントン」

２　単元について

(1)　バドミントンは、シングルス（１対１）やダブルス（２対２）でネットをはさんで相手と向き合い、ラケットを操作して様々な打球を打ち合いながら、いかに相手コートに落とし、そして得点を重ねていくかを競い合う運動であり、攻守の切り替えがとても速いという特徴がある。様々なストロークを活用しながらラリーを続けたり、緩急をつけた打球や相手を前後左右に揺さぶる打球を打って得点を競い合ったりするところに楽しさがある。また、相手の特徴を分析して作戦を考えたり、対戦した相手や自分、またはチームの特徴を考えて作戦を工夫したりする楽しさもある。ラケットを操作する技能はもちろんのこと、コートに一人、または二人のため、シャトルを持たないときの動きも重要になってくる。また、敏捷性や瞬発力、巧緻性などの体力要素の向上も期待できる。

(2)　本学級は、A組14名、B組15名の計29名で構成されており、そのうち4人はバドミントン部に所属し、2人は経験者である。本学級の生徒は、全体的に運動技能は高くなく、運動を苦手とする生徒も多いが、「上手になりたい」「楽しくラリーしたい」という気持ちがあり、一生懸命練習に取り組む。また、経験者の生徒が自主的に友達にアドバイスし、それに対して素直に行おうとする姿も見られる。

(3)　1学期に、同じくネット型のバレーボールを１０時間程度行った。そこで、バドミントンでは技能面でのラケット操作の基本と相手の打球に備えた準備姿勢に重点を置いて、ネット型の特性に触れられるようにする。シャトルやラケット操作に慣れるため、はじめは 1 対 1 のラリーからスタートし 2 対 2 へと発展させていく。コートの広さでは、定位置に戻りやすいよう狭い範囲から行う。また、コートの横幅を狭くすることで、前後のスペースを使った攻撃の感覚も身に付けさせたい。

３　目　標

(1)　 技術の名称や行い方を理解し、用具の操作や空いた場所をめぐる攻防をすることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （知・技）

(2)　攻防などの自己の課題を発見することができ、工夫しようとしている。　　（思・判・表）

(3)　仲間の学習を援助したり、安全に気を配ったり、積極的に取り組むことができる。　（態）

４　学習指導計画

(1)　オリエンテーション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

(2)　基本的なラケット操作Ⅰ（サービス練習、サービスゲーム）・・１時間

(3)　基本的なラケット操作Ⅱ（様々なストロークの練習）・・・・・２時間（本時１／２）

(4)　ゲーム（シングルス） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・３時間

(5)　ゲーム（ダブルス）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３時間

５　本時の学習指導

(1)　目標と評価

|  |  |
| --- | --- |
| 目標 | ストロークの名称を覚え、様々なストロークを打つ練習を意欲的に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度） |
| Ａ | Ｂ | Ｃの生徒への支援・指導 |
| ストロークの名称を覚え、ゲームの中でも様々なストロークを打とうとしている。 | ストロークの名称を覚え、ラリーで様々なストロークを打とうとしている。 | 得意なストロークを見つけることができるように支援する。 |

　(2)　準備物　　タブレットPC、バドミントンラケット、シャトル、バトミントンネット

　(3)　授業のポイント

　　　タブレットPC で知識の確認をしながら、様々なストロークの習得に取り組ませる。

　(4)　学習指導計画

|  |  |
| --- | --- |
| 学習内容及び学習活動 | 教師の指導・支援及び評価 |
| １　集合、挨拶をする。２　ランニング、体操、ストレッチ、筋トレをする。３　ラケット操作をする。　・シャトルを真上に連続で打ち上げ　　る（裏表両方の面を使う）。　・床からシャトルを拾い上げる。　・投げたシャトルをラケットで受け取る。４　タブレットPCで、現段階のバドミントンのストロークについての知識を確認する。５　本時の学習課題を確認する。ストロークの名称を覚えて、いろいろなストロークを打ってみよう(1)　ドライブ　(2)　ハイクリアー　(3)　ドロップ・ロブ　(4)　ヘアピン　(5)　スマッシュ６　本時のまとめをする。 | ・授業規律を大切にする意識をもたせるため、服装、挨拶、態度に留意する。・ランニングや肩を意識させたストレッチ、筋トレを行い、けがの防止と体力の向上を図る。・ラケット操作をスムーズに行うために、自己の技術を高める運動を行わせる。・現段階で、分からなくてもよいことを伝え、様々なストロークがあることに気付かせる。・アンケート形式で映像とイラストで様々なストロークに興味をもたせる。・学習の流れが分かるように、ホワイトボードに本時の流れを明記する。・短時間で次々と相手を交代するようにし、より多くの相手と練習する機会を設ける。評一つ一つストロークの名称と行うポイントを理解し、様々なストロークを打とうと意欲的に取り組もうとしている。・本時の学習課題を再確認し、タブレットPCを用いて、自己評価を行う。・生徒の自己評価から、今後の学習に取り組む意識を高めるとともに、本時の活動を振り返る。・導入時に行ったストロークについての問題を再び行い、知識の定着を促す。 |